

竜丘地域自治会 写真で振り返るこの1年



発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口 6,920人
男子 3,362人
女子 3,558人
世帯数 2,549戸
(29年2月末現在)

一年を振り返る
公民館長 下平 勝熙
体育委員会では、何と云っても市民運動会。「明日の天気は変えられない」恨めしい天気。二年連続中止という特異な経験、取り組んだブ

地域自治会長

熊谷 和美

自治会と地域づくり委員会が一本化され、地域自治会として三年が経過します。各委員会が基本構想に基づき事業を進めてきました。区長会では、各区の要望等、また、竜丘全体の改善解決に向け取り組み、そして、各委員会の進行管理を行いました。

地域振興委員会では、改良補修要望実現のため、関係機関への働きかけ、原風景の維持では鷺流峡復活プロジェクト支援、ひまわり畑、今春咲くチューリップ畑、芝生化や四季報発行に取り組みました。

安全委員会では、交通事故ゼロを目指し様々な取り組みを行ったほか、防火防犯・子ども達の見守りにも取り組みました。

福祉健康委員会では、健康でいきいきとした環境で暮らすための地域づくりに向け、毎月のいきいき教室、各区での敬老会、子育て支援の活動を行いました。

環境委員会では、「できることから始めよう みんなでつくるきれいな竜丘！」をスローガンに活動しました。不法投棄はなかなか減りませんが、竹林の伐採等による効果がありました。

微力な会長でしたが、多くの皆様のご協力をいただき、二年間の役目を終えることができました。ありがとうございました。

地域振興委員会

委員長 前澤 正信



「鷺流峡復活プロジェクト」
本活動が下伊那山林協会「南信州元気な森林づくり大賞」に選ばれました。



福祉健康委員会

委員長 宮澤 聖



「おひとり暮らしの皆さんとの交流会」
総勢47名、屋神温泉にて昼食会、じゃんけん大会等で楽しいひとときを過ごしました。

安全委員会

委員長 小池 敬二



交通事故ゼロを目指し、人波作戦をはじめとした啓発運動に取り組んだほか、子どもの見守り行動も実施しました。



環境委員会

委員長 酒井 公



「不法投棄パトロール」
春と秋に開催。ごみが不法投棄されていないかパトロールを行った後、各区の環境委員が合同でごみを収集しました。

ロセスを引き継ぐことに。もしかしして新しい発想が生まれるきっかけかも？

文化委員会では、市民大学講座は今年度で三十八回を数え、顧みながら趣を替え、産業を視点に「竜丘のモノづくり」をテーマに地元企業四社（山京インテック・システムリサーチ・旭松食品・若木屋製菓）の担当者に起業目的・活動内容・モノづくりへの思い・若い皆さんへの示唆・地域への思いなど語っていただき、「そうなんだ」「なるほど」の新しい発見ができた。

育成委員会では、飯田OIDE長姫高校との協働で、商業科三年生七名が、地域人教育の一環として水辺の楽校イベントに参加しキャリア体験。「流しそうめん」を発売、地域の皆さんと協力、作業の大変さも経験し、そのことが市民運動会への参画や、クリスマス会による小学児童との交流にまでつながった。今後も若者の特権である豊かな発想とパワーで地域を盛り上げてもらいたい。

民俗資料保存委員会では、民間信仰の祀り、社や御堂等を調査し文化祭にて展示知識を深めたこと。竜丘小三年生が資料館を見学し、また昔の生活用品を実体験し、感動を与えることができ、今まで蒐集・保存してきた事が報われた瞬間を味わえたこと。民俗資料館の維持が課題となる。広報委員会は記録はもちろん、読者の記憶に残る紙面づくりにより一層取り組んで欲しい。

公民館の合言葉「知りあつてふれあつて 学びあおう」に全てが凝縮されている。イベント重視ではなく「学び」の視点で事業構築することで人と地域が育つ気がする。

民俗資料保存委員会

委員長 宮嶋 聡子



「石臼ってなに？」不思議そうに見守る小学生、炒った豆を石臼の穴に入れてぐるぐる回すと「わっ！黄な粉になった」「いい匂いだな」歓声が上がりました。笑顔いっぱいひと時でした。

育成委員会

委員長 関島 隆夫



飯田OIDE長姫高校「地域人教育」
高校生が流すソーメンに大喜び。途中からはラーメンも流れ、さらに大歓声。皆ニコニコ笑顔でおいしくいただきました。

体育委員会

委員長 岡村 明



運動会、2年連続の中止となってしまいました。市民大学講座の狙い…今年は、竜丘のモノづくりに焦点を当てた。中学生も巻き込んだ方向を打ち出したが、初めての試みのため、受講生の参加数が伸び悩んだ。

文化委員会

委員長 代田 勇



市民大学講座の狙い…今年は、竜丘のモノづくりに焦点を当てた。中学生も巻き込んだ方向を打ち出したが、初めての試みのため、受講生の参加数が伸び悩んだ。



寒さが骨身にしみる今、インフルエンザや、風邪に気をつける為、うがい・手洗いの大切さを家族で話し合うこともしばしばです。さて、健康というものは体調を崩して初めてありがたみを感じられるものではないでしょうか。日ごろから健康のために何かをしようと思っても、実際にはなかなか体の管理ができないものです。

大病を患い、無理のきかない不安な毎日を経過すとすると、家族全体に少しづつしわ寄せが及ぶものではないでしょうか。その時になつていろいろ頑張つても一人だけでは空回りするばかりではないでしょうか。そうならないためには家族でお互いの健康管理を補い合うことが必要なのではないでしょうか。

しかし、毎日の生活の中で何ができるのでしょうか。親が子どもの体調を日々気にするのは当たり前ですが、祖父母・兄弟・叔父叔母などまで、体調を気遣うことはなかなか大変なことです。

そこで、健康診断やかかりつけの病院での継続的な健康維持を、家族や周りの人たちが協力し合うことが大切なのではないでしょうか。しかし、実際どこまで自分以外の健康を気遣うことができるのでしょうか。やはりなかなかできないのではないのでしょうか。家族や周りの人で時折話し合い健康で長い人生を送れるようにしたいものです。

健康のありがたみは寝込んでから考えても、ああ、あの時に病院に行けばよかったなどと悔やむだけです。竜丘の皆さんが、病気になることが少しでも無くなるようにと思っています。

各分館文化祭だより

毎年この時期、多くの分館の文化祭が開催されます。より地域に密着した特徴ある文化祭の様子を紹介します。

駄科分館

前日の準備に入りました
が、天気予報で当日は風が強く雪が降るとのこと、とん汁とおしるこをふるまう為のテント張りはやめて社務所横の中広間を使用させてもらうことにしました。二月五日を迎え、オープニングは雪が降り始めたので玄関前から急ぎよふれあいホールで行うことにしました。南平と下平の獅子舞に始まりテープカットがあり、演芸発表会に移る頃には満席になりました。Gストリングス琴姫の小学生達が大きな琴を上手に演奏するのには驚きました。フラダンスリーレファの熱演は窓の外の雪とは対象的でした。鈴

長野原分館

二月十九日長野原区民センターにおいて、第三十九回長野原文化祭が開催されました。
長野原文化祭の歴史を紐解いてみると『館報ながのはら』の第三号に次の様な記事がありました。
「昭和五十三年三月二十



それぞれ駄科だに！

時又分館

二十八年度の文化祭は二月五日(日)に、時又ふれあいセンターで、開催しました。新築して初めての文化祭で、レイアウト等準備には苦労しましたが、関係団体の皆様方のご協力により、会場いっぱいに展示する事ができました。今年度の目玉として「時又八景」を選定しようと取り組んできました。写真や絵で五十点近くの応募があり、当日来場した区民の皆様に投票していただき、時又八景が選ばれました。どの作品も時又の魅力満載で、これからの公民館活動に生かして



親子でもちつき

桐林分館

いけたらと思います。又地元長石寺に伝わる縁起の展示と講演(現代語訳、沖田操氏)があり、そう言うものがあるのを初めて知ったと、感激している人が大勢おり、さすが歴史のあるお寺だと、言った声も聞かれました。女性委員を中心に行ったおしることおん汁のサーブスも、前日からの仕込みの甲斐あり、とん汁は大きな鍋二杯が空になる程盛況で、毎年文化祭を楽しみにしていて、「無理してでも来る」と言っていた方も来り、公民館もそう言う方々の声を大切にして、文化祭や公民館活動していかねければと思います。楽しい一日でした。



時又八景

一月二十九日(日)恒例の桐林分館文化祭を開催。今年は「地震体験車」で生きた疑似体験を学習、館内一階は全て無料フードコーナーで公民館役員・文化育成・体育部員が前日準備から心を込めておもてなし。入口で焼き立てポップコーンを頂き、奥へ進むと毎年大好評の具たくさんとん汁蕎麦の會「野菜路」手打ちそば等は数量限定無くなり次第終了で二階ホールの区民作品展の前に腹ごしらいしないと来年までお預け!!皆さん行列で愉しんで頂き、次は力作揃いの作品展(保育園・小学校・サークル活動)で感嘆し、体験コーナーの可愛いバルーンアート・オリジナルコマ作り・スポーツ吹き矢を一巡して再び展示品散策へ足を運んで最初は桐林企業の製品展示品(エース工芸のミニランドセル・シナノ精密の金属加工製品、分館事業で



とん汁大忙し！

身近な相談相手「民生委員」とは

民生委員は、「常に住民の立場に立って相談に応じ、必要な援助を行う」と法に定められています。地域住民の「身近な相談相手」であるとともに、「支援へのつなぎ役」です。地域住民が抱える悩みや心配事などの相談にのり、必要に応じて専門機関や福祉サービス等の情報を提供したり、そのような機関につなぐなどにより、住民自らが課題を解決するための支援を行います。民生委員・児童委員には守秘義務があり、住民との信頼関係のもとに活動しています。



新しい民生児童委員が選任されました

	氏名	担当地域
駄科	北澤 重子	下平1、2、3、5、下平駅北
	まつ松 永子	下平4、15、下平駅南、下平駅前
	ほん本 田久	橋場・鈴南、宮本・新川2
	しお塩 澤美智子	宮本・新川1、寺下、北1、2、3、新井原
長野原	くま熊 谷龍司	長野原1、2、3
	なか中 島茂代	長野原4、5、6
時又	なか中 村子	時又1、2、3、12
	まさ牧 内繁	時又4、5、6、7、8、9、10、11
桐林	大倉 剛	南、小池、安城、久保田、中原
	おき沖 田きよ子	久保尻、上北、古瀬、中央、東、前の原
上川路	ささ岡 富男	上川路全域
主簿兼賞	はばひろみつ	竜丘全域
	きの木 下晶子	竜丘全域

特集

人との繋がり

支え合い

共生



「地域人」で思いを繋ぎあわせよう

地域において生活の価値観も、ライフスタイルや風習は特に世代間でも、時代と共に変化してきています。高齢化社会を迎える中で人との繋がりや支え合いが大切となります。価値観の多様化や国際化が進む中、多様な人たちが違いを認め暮らしていく事が必要となります。地域活動の中から始まった「ぬくぬく」の方々の活動を今回ご紹介しします。社会との繋がりを保ちながらイキイキ暮らすことを支えてくれています。原さんは以前参加した運動会のエピソードをお聞きました。

「キーマン」で繋がる

時又 哲夫

私は全盲の視覚障害者です。地域との関わりの中でこんな思いがあります。運動会の分館対抗競技に出場したときのことです。分館長をしていたC君が高校時代の友人だった気易さもありそれでも反応を気にしつつ、百足競走に出たい旨を伝えました。意外にも彼は「そうかな、ちよっと時間をくんな」と。そして私は分館チームのクルーの一員として出場することになりました。百足競走は全盲には打ってつけの種目なのです。両手で前のクルーの動きを知り、前後で結んだ両足からも歩幅と動きが伝わります。この辺り

「ぬくぬく」活動の紹介

代表 中 平 俊 次

平成十三年度の市政懇談会のテーマ「地域から福祉を考える」の中から、高齢者に的を絞って考えてみようとしたのが「ぬくぬく」です。

高齢者が急速に進んでいる中で、高齢者の日常生活に様々な問題が出現しています。独居の方はもとより、家族と同居していても日常の会話が少ない上、地域と触れ合う場も少ない高齢者が全国的に増加しているという話題にのぼりました。「井戸端会議」とか「もらい風呂」といった言葉はとうに死語となつていることも話題にのぼり、こうした現状をふまえて地域として何ができるかと話し合いを重ねました。その結果、高齢者が外へ出て多くの人と接し、おしゃべりをする機会を提供することで日常生活に希望やゆとりが生まれるのではないかとこの結論に達し「ぬくぬく」をス

